

令和3年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校 (No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践、家庭学習の充実を通して、生徒個々に応じた進路実現をめざす。また、GIGAスクール構想の推進を図る。</p>	① 生徒による授業評価や教職員相互の授業参観をもとにして、学力向上につなげる授業を充実させる。	生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は46.9%（前期41.1%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は43.0%（前期46.6%）、合計89.9%（前期87.7%）であった。 ・前年度より2.4%増加した。今後も本時の目標の提示や授業の振り返りを毎時間継続徹底するよう取り組んでいく。
	② 「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を通して、家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は41.1%（前期37.2%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は34.3%（前期36.3%）、合計75.4%（前期73.5%）であった。 ・前年度より2.6%増加したが、肯定的な回答をする生徒はまだ、80%には達していないことから、引き続き、予習・復習したことが授業で活かせられ、結果として実感できるように継続して取り組んでいく。
	③ 授業の中で生徒が思考する時間を確保し、ICT機器を活用して、生徒個々の学びの質を高め、資質・能力の育成を図る。	生徒アンケートの「授業の中で主体的な活動や思考時間が確保されている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は59.2%（前期53.7%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は32.2%（前期35.2%）で合計91.4%（前期88.9%）であった。 ・授業の中でまず個人に考える時間を確保し、ペアワーク等で共有させ、更なる思考を深める生徒への問いかけや声かけの取り組みを継続していく。ICT機器活用について教科会や研修についても継続していく。
	④ 国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。	国公立大学の現役合格者数,うち難関大・金大合格者数 A：100人以上 A：20人以上 B：90人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストを課さない国公立大学推薦入試の合格者数は13名であった。（昨年度同時期は10名）3月末現在では、現役合格者数が98人であった。
学校関係者評価委員会の評価		・予習復習する時間は、スマホ時間、睡眠時間が関係していると思う。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・生徒会やPTAとも連携して「家でのスマホルール」の見直しや「睡眠時間を増やす」ことで得られる効果をアピールしていく。		

令和3年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校 (No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>(2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、挑戦する勇気を持った、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。</p>	<p>① 文武両道を基本に、各々が年度当初に立てた目標を達成するよう努力する。</p>	<p>教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた部顧問の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>A</p> 	<p>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は10.9%（前期11.6%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は71.7%（前期67.5%）で合計82.6%（前期79.1%）であった。</p> <p>・昨年度は中止となった総体総文が開催されたこともあり、各々が目標を持って取り組めた。より充実した部活動計画を立て、活動の充実につなげたい。</p>
	<p>② 重点目標にあるように「挑戦する勇気を持って」生徒が自主的に取り組むことができるよう、部活動と学校行事において生徒主体の運営を進めていく。</p>	<p>生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>B</p>	<p>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は51.1%（前期53.4%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は36.4%（前期35.8%）で合計87.5%（前期89.2%）であった。</p> <p>・ほぼ例年並みの結果となった。自分たちが求める目標や成果をしっかりと意識して、成果や結果につながる活動に主体的に取り組むことが課題となる。</p>
	<p>③ 授業の最初と最後に統一した挨拶を行うことを徹底する。また、教員からの積極的な声かけにより、生徒が自発的に挨拶する学校の雰囲気づくりに努める。</p>	<p>生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>A</p>	<p>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は55.0%（前期54.1%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は34.9%（前期37.8%）で合計89.9%（前期91.9%）であった。</p> <p>・学校生活の中で、行動に責任を持つことや「M-PRIDE」を通して、明峰生としての自覚や誇りを育むように取り組む。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・「M-PRIDE」としての取り組みが、生徒の規範意識を高めている。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・「M-PRIDE」の意識をさらに高めさせられるように、サイネージだけの周知ではなく、教室掲示や教員からの声かけをしていく。</p>			

令和3年度 最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。</p>	<p>① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。</p>	<p>教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>A</p>	<p>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は50.0%(前期62.8)、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は50.0%(前期37.2%)で合計100.0%(前期100%)であった。 ・いじめの未然防止の重要性を理解し、連携を密に取りながら、早期発見・早期対応に取り組む必要がある。</p>
	<p>② 地域でのボランティア活動を各学期に1回以上計画し、学校教育に対する地域の理解を得る。</p>	<p>ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>B</p>	<p>・12月実施の生徒アンケートで、「複数回参加した」と回答した生徒は38.3%(前期27.4%)、「一回参加した」と回答した生徒は30.5%(前期20.3%)で合計68.8%(前期47.7%)であった。 ・2学期中間考査最終日に学校周辺ボランティア活動を行った。</p>
	<p>③ ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。また、メール配信では必要な情報を遅延なく提供する。</p>	<p>学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>B</p>	<p>・12月実施の保護者アンケートで、「当てはまる」と回答した保護者は25.7%(前期26.7%)、「ほぼ当てはまる」と回答した保護者は63.7%(前期63.3%)で合計89.4%(前期90.0%)であった。 ・生徒の様々な活動をトップページの「明峰diary」でほぼ毎日更新している。1日平均1000アクセス。学校が取り組んでいることやその方向性、部活動の様子を充実させていく。</p>
	<p>④ 教材の共有や各種会議の縮減、業務の平準化等の取組を通して、生徒と向き合う時間を十分に確保する。</p>	<p>教員アンケートの「教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>A </p>	<p>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は23.9%(前期20.9%)、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は65.2%(前期55.8%)で合計89.1%(前期76.7%)であった。 ・昨年度後期は82.0%。今後も教員自身が自分の働き方を振り返る機会を設定していきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・学校ホームページのアクセス数が毎日1000超えは凄い。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・生徒の日々の活動を毎日更新している。この情報発信が生徒の自己肯定感や自己有用感を育み、さらに高みを目指す向上心につながっていくようにしていきたい。</p>			